

東日本大震災
対策本部情報

114号

2011/08/22

女川町長から御礼状が届きました！

JR東労組は3・11震災発生当初から、支援物資輸送はじめ復興支援ボランティア活動を12地本が一致団結して進めてきました。少しずつでも地域復興、そして鉄道復旧のために私たちの活動が役立てばと展開してきています。

こうした諸活動に対して、女川町長から御礼状が本部宛に届きました。



謹啓 残暑の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度の東日本大震災に際しましては、心温まるご支援ご協力をいただき、ご厚情のほど誠にありがたく、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、3月11日に発生した大地震は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、直後に襲来した巨大津波と相まって、本町を含む三陸沿岸を中心にこれまで経験したことのない未曾有の大災害をもたらしました。

本町におきましても、多くの町民の尊い生命と財産が一瞬のうちに奪い去られるとともに、多くの公共施設や基幹産業である漁業、水産業及び観光関連施設等に甚大な被害を受けました。

現在、町は大変困難な状態におかれておりますが、復旧復興に向けて取り組んでいるところであり、一日でも早く「海と緑、豊かな自然と人に恵まれた活気ある女川町」を取り戻すため、町民一丸となり、この苦難を乗り越えるべく努力して参る所存でございます。

お寄せいただきましたご支援は、被災された方々の大きな支えとなり、町民や職員にとりましても大変大きな励みとなりました。

復興にはかなりの時間を要するものと思われませんが、仮設住宅の整備などにより、数千人がいた避難所生活者も現在は340人程まで減り、また、町内に仮設店舗による商店の営業再開など少しずつではありますが町の再生は着実に前に進んでいる状況であり、皆様からの温かいご支援と励ましを支えに頑張りたいと存じますので、今後ともお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この度のご支援にあらためて感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、略儀ながら書中をもちまして御礼のご挨拶といたします。

謹白

平成23年8月

宮城県女川町長 安住 宣孝